

# 2020年度 第3四半期 決算補足資料

2021年2月8日

# 2020年度 第3四半期決算のポイント

(単位：百万円)

	2019年度 第3四半期	2020年度				
		1Q	2Q	3Q	前年同期比 3Q	第3四半期
売上高	92,019	15,524	21,312	27,670	△1,670	64,506
営業利益	512	△3,020	△782	1,092	921	△2,710
経常利益	209	△2,589	△561	1,004	906	△2,146
当期純利益	106	△3,190	△788	919	846	△3,059

## 《3Q決算の全体感》

- 売上：生産状況は1Qを底に回復基調にあり、3Qはアルミ地金市況の下落の影響を除けばほぼ前年並みの水準
- 営業・経常利益：売上回復と原価低減、生産性改善活動により黒字回復  
セグメント利益（次頁）も日本、北米、アジアの全セグメント黒字化
- 当期純利益：当期純利益でも黒字計上

# ダイカスト事業

(単位：百万円)

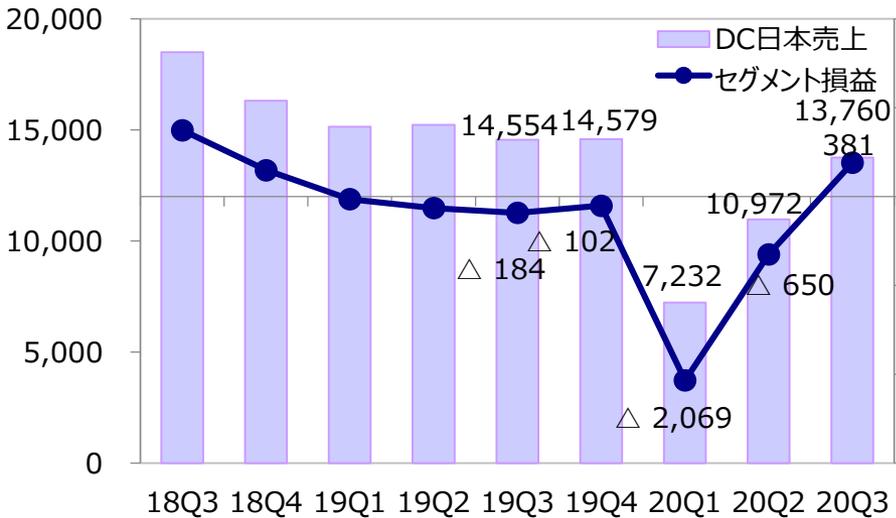
		2019年度 第3四半期	2020年度				前年同期比 3Q	第3四半期
			1Q	2Q	3Q			
日本	売上高	44,921	7,232	10,972	13,760	△794	31,964	
	セグメント 損益	△342	△2,069	△650	381	564	△2,338	
北米	売上高	23,998	4,742	3,868	6,262	△754	14,872	
	セグメント 損益	536	△156	△167	449	391	126	
アジア	売上高	18,051	2,257	5,346	5,738	△569	13,341	
	セグメント 損益	△98	△995	36	132	△90	△827	

※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算のため、第3四半期は1～9月の売上利益となります。

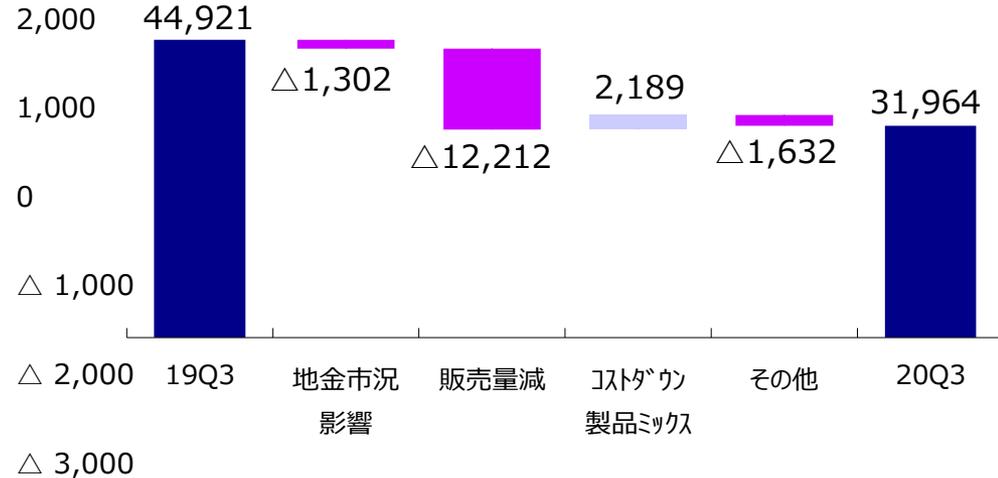
※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

# ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減要因（単位：百万円）



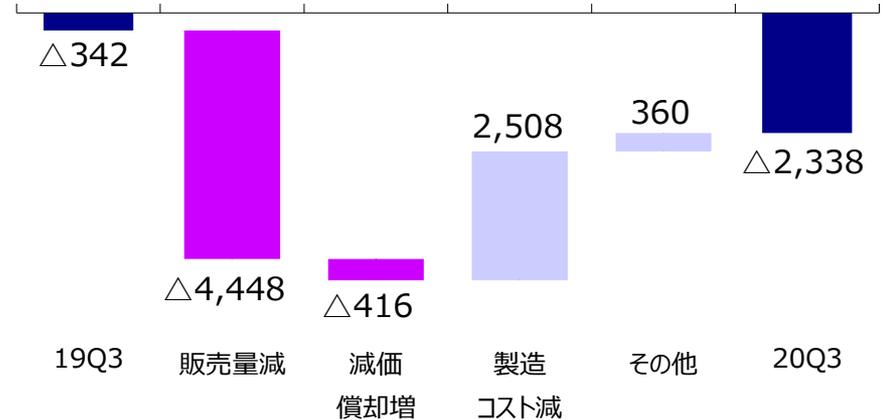
## 売上：129.5億円減（前期比28.8%減）

- 2Qで前年同期比△27%まで回復した販売量は、3Qでは前年同期比△3%まで回復しました

## セグメント損益：19.9億円減（前期比減）

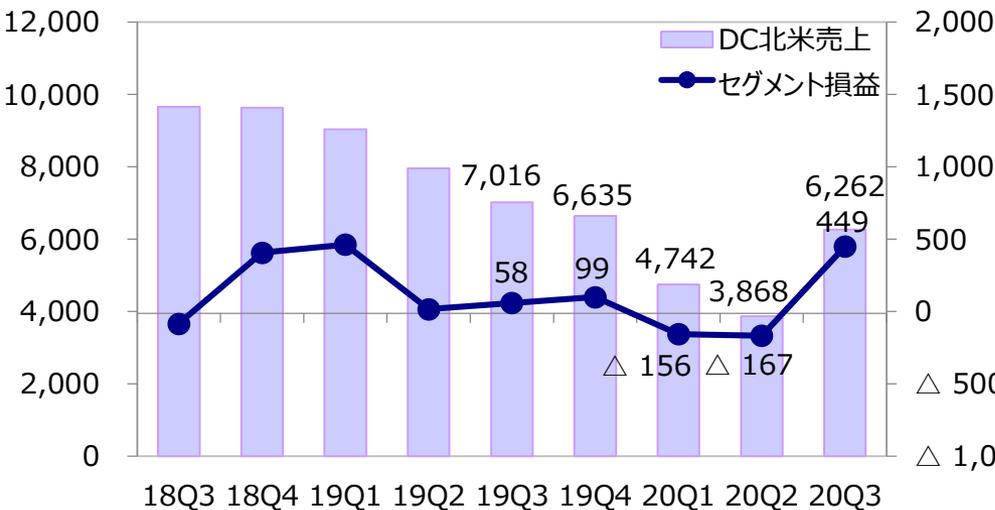
- 累計は1Qのコロナ影響を大きく受け▲23億の赤字となったが、リーンな生産体制への見直し等による収益体質改善の実施により、3Qは3.8億の黒字

セグメント損益増減要因（単位：百万円）

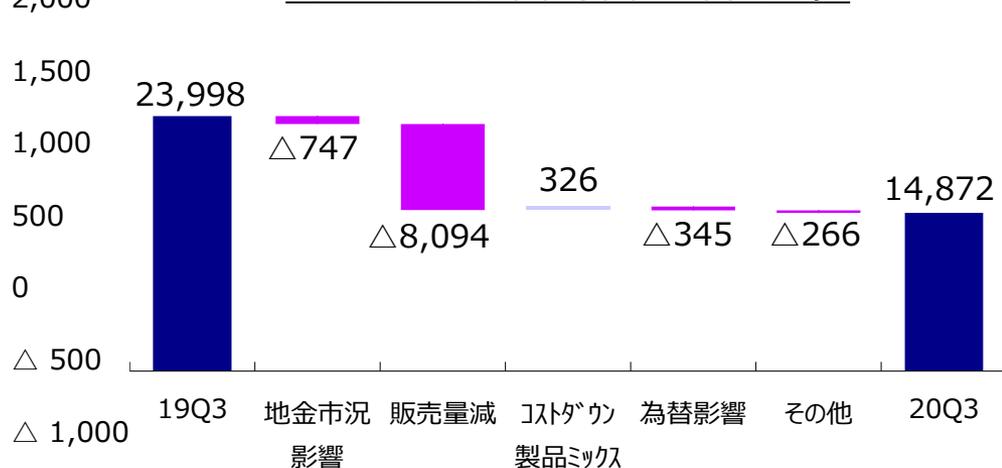


# ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減要因（単位：百万円）



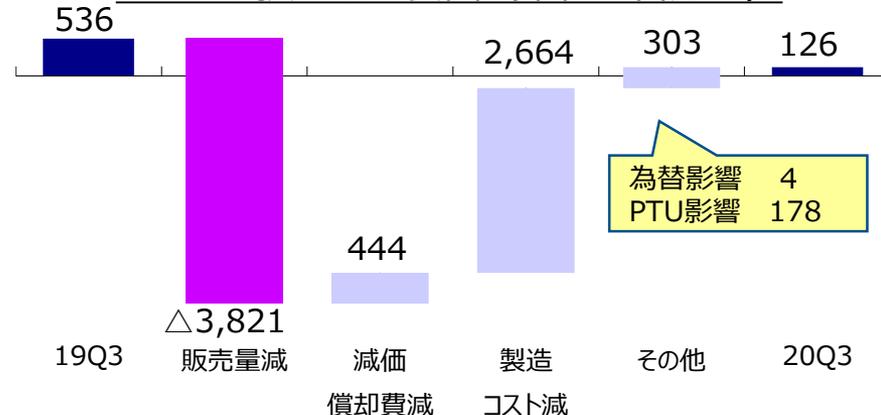
## 売上：91.2億円減（前期比38.0%減）

- アメリカは1Qの操業停止により大きく販売量を落としたものの、3Qでは前年同期比△7%まで回復
- メキシコの2Qはロックダウンにより大幅減収となったが、7～9月にあたる3Qは前年同期比△10%まで回復

## セグメント損益：4.1億円減（前期比減76.4%減）

- アメリカは労務費削減等により3Q収益は黒字転換
- メキシコは売上回復に伴い利益も回復し3Q累計黒字
- 北米の3Q累計も前期比減ながら黒字を計上

セグメント損益増減要因（単位：百万円）

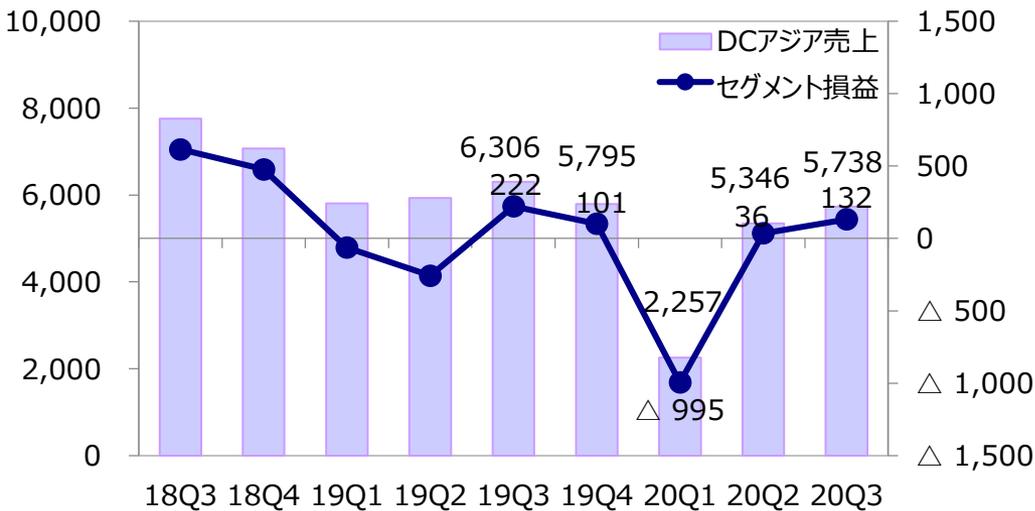


決算期：アメリカ3月期、メキシコ12月期

レート（19Q3⇒20Q3）アメリカ 109.13 ⇒105.88 メキシコ 109.41 ⇒107.49

# ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



## 売上：47.1億円減（前期比26.1%減）

- 中国2拠点の3Qは7～9月にあたり、販売量は前年同期比の△5%まで回復
- インドの3Qは前年同期比△29%と回復途上

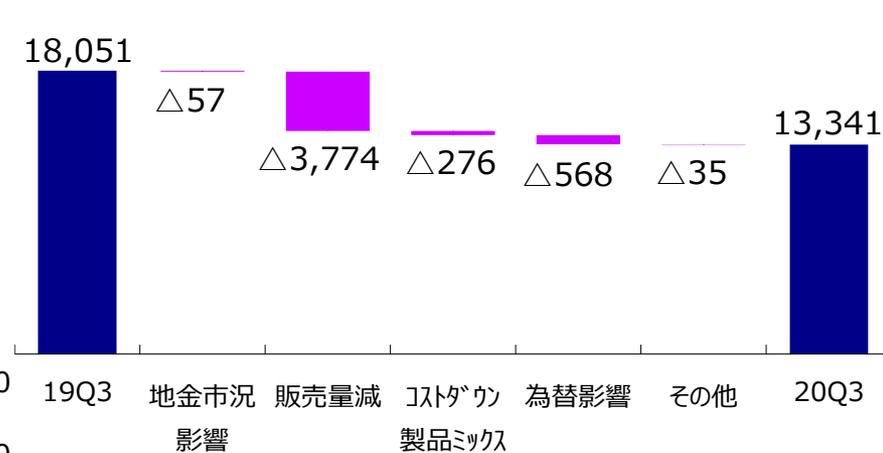
## セグメント損益：7.3億円減（前期比減）

- 中国は売上増と生産性改善により2Qに続いて黒字
- インドは売上が戻りきらず収益も回復途上

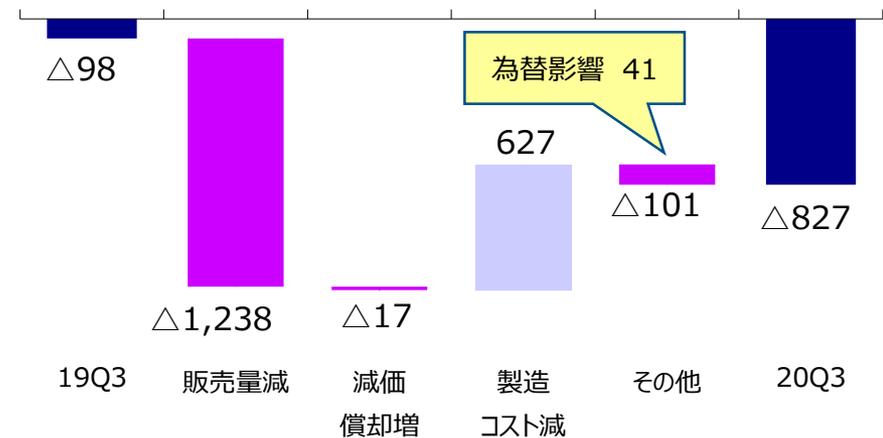
決算期：中国12月期、インド3月期

レート（19Q3⇒20Q3） 人民元 15.94 ⇒15.34 インドルピー 1.55 ⇒1.42

売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



# アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2019年度 第3四半期	2020年度				
			1Q	2Q	2020年 3Q	前年同期比 3Q	第3四半期
アルミニウム事業	売上高	3,081	646	748	1,018	4	2,412
	セグメント 損益	135	△41	0	36	8	△5
完成品事業	売上高	1,966	644	379	891	442	1,914
	セグメント 損益	172	109	40	126	68	275

## アルミニウム事業

- 売上：新型コロナウイルス感染症の影響からは回復基調。3Q売上高はほぼ前年並み
- セグメント損益：累計は売上高の大幅減少により減益だが、2、3Qでブレークイーブンの水準まで回復

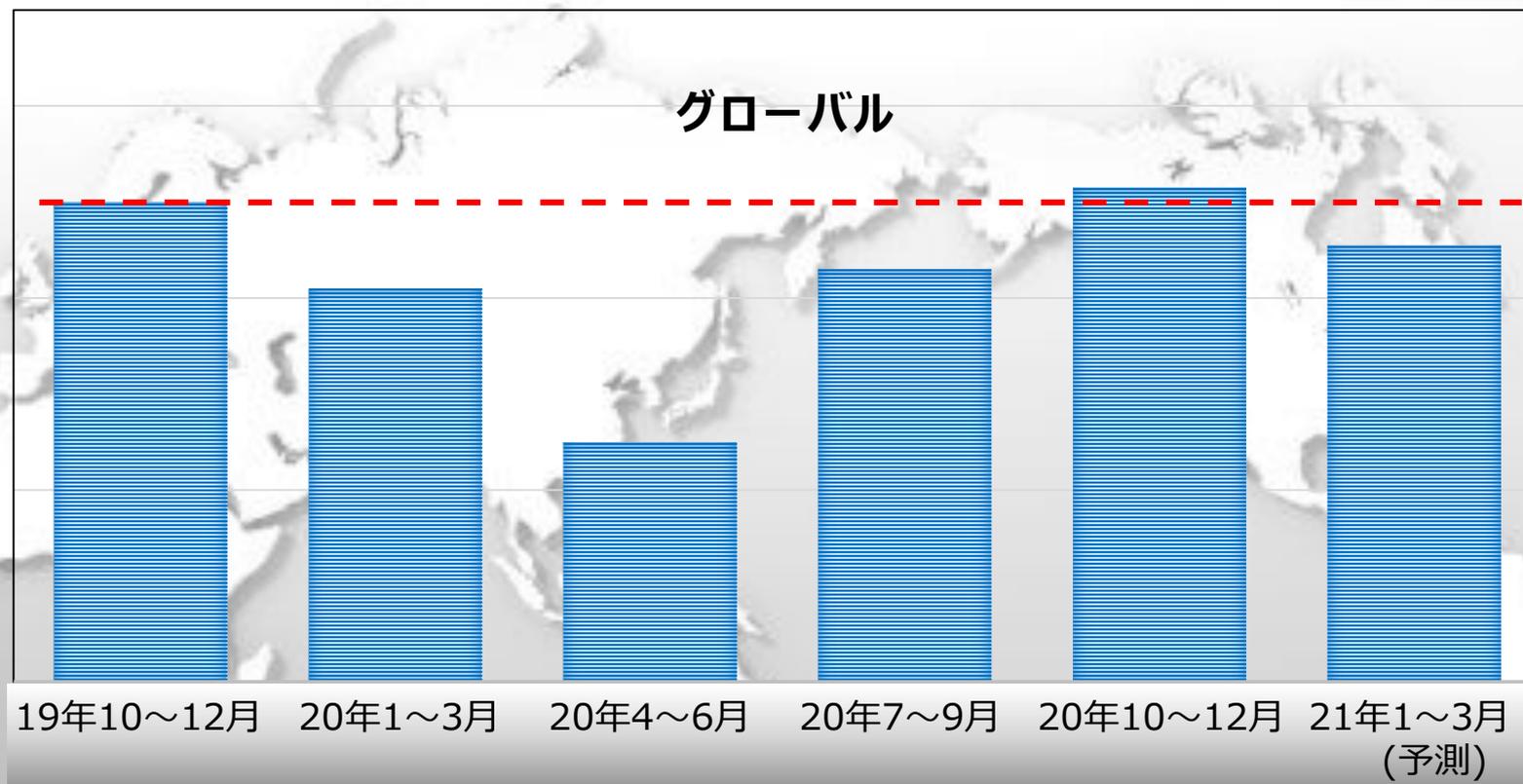
## 完成品事業

- 売上：クリーンルーム等の大型物件の受注が前期を下回り減収
- セグメント損益：原価低減等により前年以上の利益率を確保し増益

# グローバル 売上重量

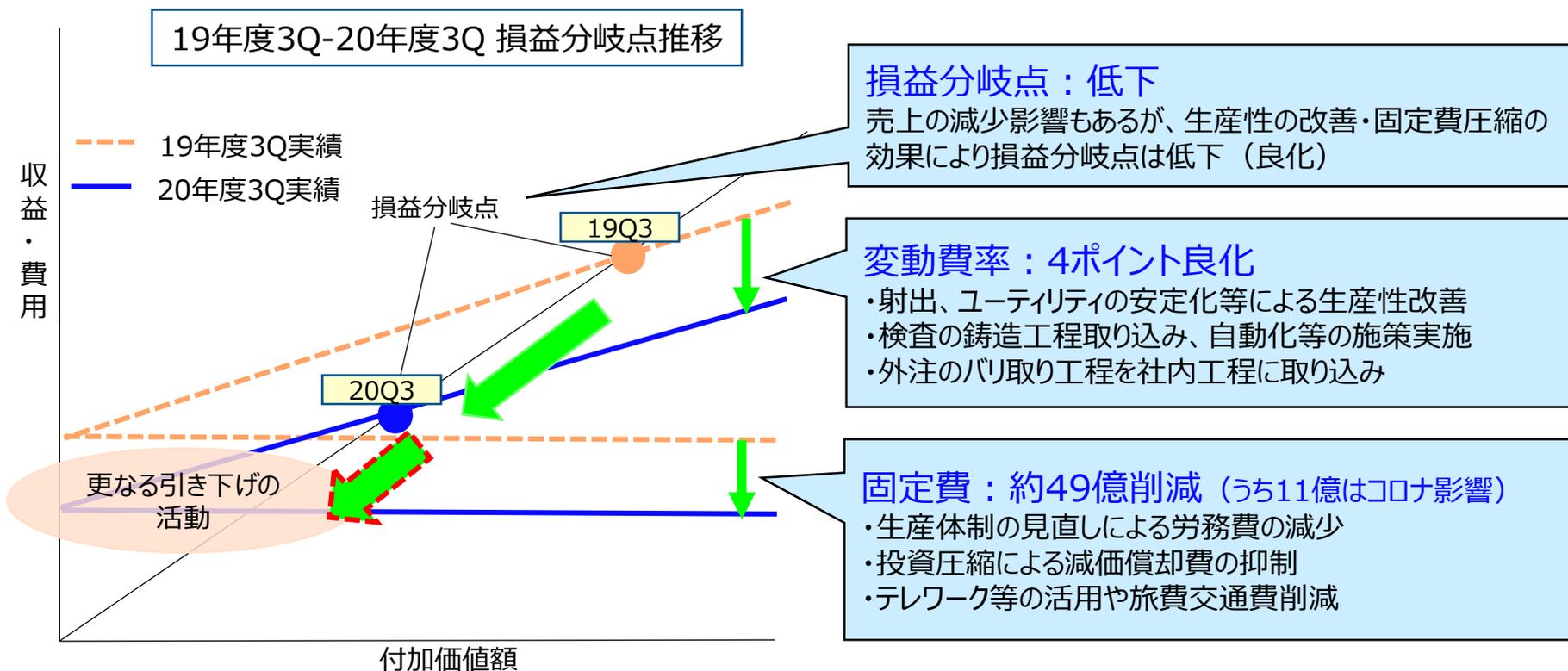
## ■ 3Qまでは回復基調。半導体不足の影響により21年1～3月は減少予測

※新型コロナウイルス禍以前の19年10月～12月の平均値を100とした場合の売上重量



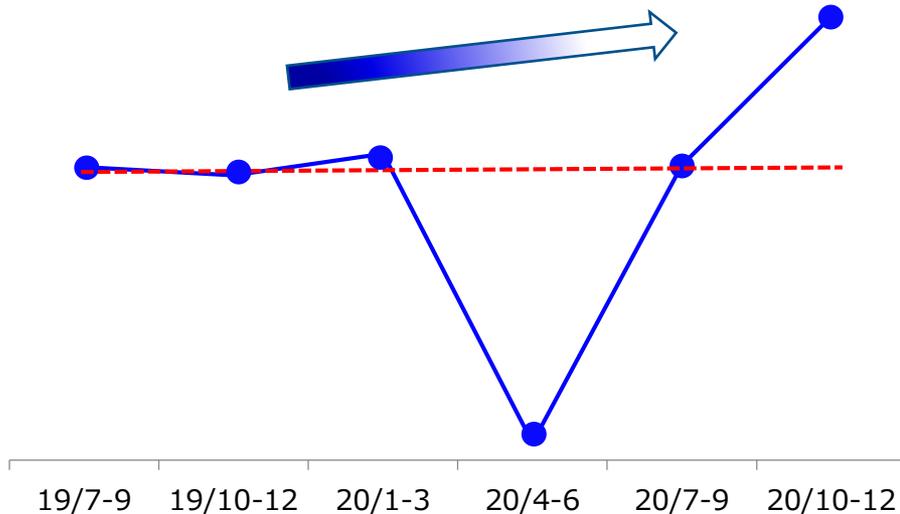
# 自動車市場の変化に対応した企業体質への改善

19年度からの中期経営計画でリーン生産体制への転換により、損益分岐点も低下。  
前年度3Q累計との比較では固定費の減少だけでなく、生産性の改善で変動費率も良化。



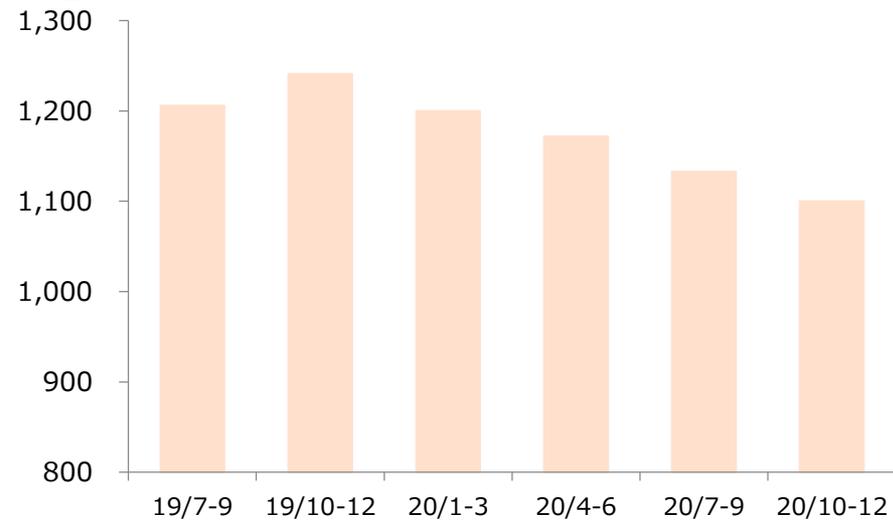
# リーン生産体制推進状況（第3四半期まで）

時間あたり稼ぎ高



工場間接部門人員推移

(単位：人)



リーン生産体制の推進により、時間あたり稼ぎ高は8、9月は昨年度を5%、10月以降は20%程度上回る生産性で推移。

工場間接部門も異動等で前年同期比約▲140名減。  
・出張の削減、Web会議活用などニューノーマルの様式を推進

※時間あたり稼ぎ高 = 売上高から原材料費等の直接費を除く金額 ÷ 工場人員の総労働時間

# 2020年度 業績予想および配当予想の修正

通期業績上方修正のもとで、復配（5円）の予想とさせていただきます

(単位：百万円)

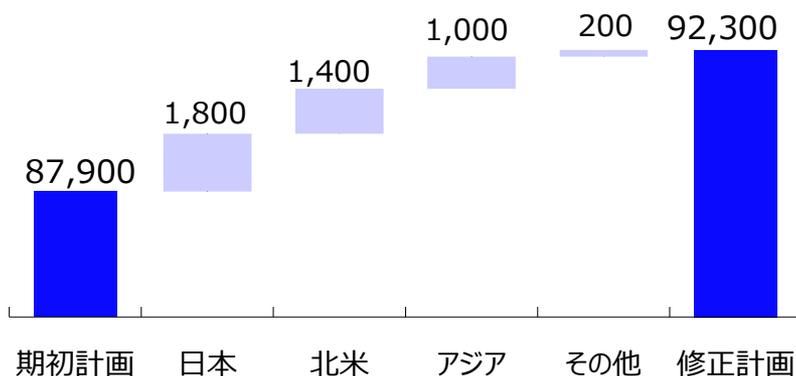
	2020年度 期初計画(8/6)		2020年度 修正計画(2/8)		対期初計画 増減
	下期計画	通期計画	下期計画	通期計画	
売上高	51,600	87,900	55,500	92,300	4,400
営業利益	0	△4,000	1,170	△2,600	1,400
経常利益	△150	△3,450	940	△2,200	1,250
当期純利益	△200	△4,400	1,130	△2,900	1,500
配当金 (円)	—	—	—	5	—

# 2020年度ダイカスト事業 業績予想修正

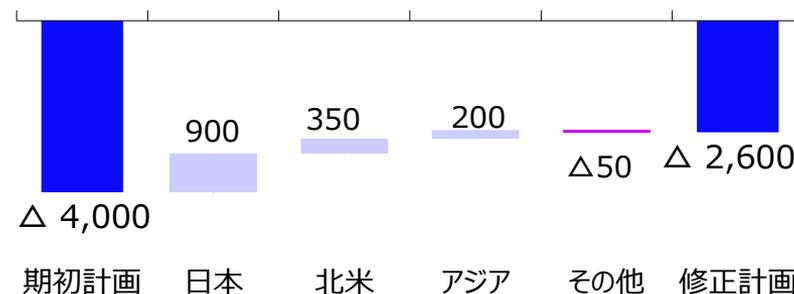
(単位：百万円)

		2020年度 期初計画(8/6)		2020年度 修正計画(2/8)		対期初計画 増減
		下期計画	通期計画	下期計画	通期計画	
日本	売上高	25,400	43,300	26,880	45,100	1,800
	セグメント損益	△500	△3,500	100	△2,600	900
北米	売上高	11,500	20,100	12,860	21,500	1,400
	セグメント損益	200	△100	550	250	350
アジア	売上高	11,500	19,000	12,390	20,000	1,000
	セグメント損益	150	△750	400	△550	200

売上高 対期初計画増減 (単位：百万円)



セグメント損益 対期初計画増減 (単位：百万円)





# Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

**【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】**  
**株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664**  
**E-mail: [ahresty\\_MP0\\_IR@ahresty.com](mailto:ahresty_MP0_IR@ahresty.com)**  
**URL: <https://www.ahresty.co.jp>**

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。